

地域の指導者の 主体的な交通安全教育をサポート



Hondaは各地域において「手渡しの安全」の担い手となる指導者づくりに取り組んでいます。Hondaの考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、交通指導員^{*}、Honda関連会社の従業員、学校の先生方に対し、指導方法などの提供を通じて、指導者の交通安全教育をサポートしています。

*交通指導員=自治体や関係団体等に属し、地域において子どもや中学生・高校生、高齢者に対して交通安全教育を行う職員

地域に根ざした 普及活動の定着化を支援

Hondaでは、全国5カ所(下記参照)の各製作所内にある地区普及ブロックがHondaの交通安全教育プログラムを活用した指導を実践するとともに、研修などを通じて、そのノウハウを地域の指導者に伝えています。特に、交通安全教育プログラム「あやとりい」(P27参照)は、全国各地の交通指導員を中心に活用されています。山形県小国町の交通安全専門指導員の方は幼稚園・保育所での交通安全教室で「あやとりい ひよこ編」を使って指導。「ワークシートに人やクルマのイラストを貼ってもらうなど、子どもが参加できるようになっている点が効果的」と評価されています。



山形県小国町の交通安全専門指導員と保護者による白百合保育園での「あやとりい ひよこ編」

Honda関連企業内に インストラクターを養成

Hondaは2008年より関連企業内にも交通安全指導を担う指導者をHondaパートナーシップインストラクター(HPI)として養成し、教材の提供や定期的な情報交換会など、自社内および周辺地域における交通安全普及活動の支援を行っています。今年は16社17名を養成し、現在38社127名のHPIが積極的な活動にご尽力いただいています。



交通教育センターレインボー浜名湖で行われたHPI第5期生の養成研修

Hondaのノウハウを活用した交通安全教育を実施したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

栃木普及ブロック(栃木県真岡市) TEL:0285-84-7114
 埼玉普及ブロック(埼玉県狭山市) TEL:04-2955-5323
 浜松普及ブロック(静岡県浜松市) TEL:053-439-2316
 鈴鹿普及ブロック(三重県鈴鹿市) TEL:059-370-1553
 熊本普及ブロック(熊本県大津町) TEL:096-293-3206

思いやりの心を身につけ、 安全意識の向上につなげる教育

Hondaは高校生に対して、交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナー、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性を育み、若く尊い命を守りたいと考えています。そのためには、交通安全について主体的に考え、自ら行動できるようになるための学習機会の提供が必要です。そこで、Hondaは独自に高校生交通安全教育プログラムを開発。2012年に熊本県内の高校で実施し、2013年から全国へ展開しています。これまでに23府県169校(10月末現在)に実施しました。

この高校生交通安全教育は、自転車や原付の運転時における交通ルールやマナー、危険行動について、感受性教育^{*}や実技を通じ、高校生自らが考えることで行動変容を促すことがねらいです。感受性教育では、交通ルールやマナーの重要性、事故を起こしてしまった場合の影響や責任を学ぶことで、人への思いやりや命の大切さに気づいてもらうための教育を行っています。一方、実技では危険を安全に体験し、危険回避の方法を学ぶなど、自ら交通事故から身を守るという考え方を生徒に身につけてもらっています。この感受性教育と実技によって、「事故は絶対に起こさない。巻き込まれない」という意識の向上とともに、「絶対に人に迷惑をかけない」という道徳心の向上をめざしています。

高校と生徒が主体となった 自主活動をめざす

Hondaの高校生交通安全教育は、「自らの安全は自らが守る。自らの学校の安全は自分たちで守る」という自立心の向上を図り、高校と生徒が主体となった自主活動に発展させていくことが目標です。2年目を迎える高校に対しては、学校が交通安全教育を継続して実施できる体制づくり、また地域によっては、地域の指導者と学校が継続できる体制づくりを進めています。

兵庫県立伊丹西高等学校では、1年生320名を対象に高校生交通安全教育を実施。座学をHondaのインストラクター、自転車の実技を同校の生徒指導部とクラス担任の先生方が担当しました。群馬県立下仁田高等学校では、1年生60名を対象に先生方による感受性教育が行われました。また、徳島県立三好高等学校ではHondaと連携して、同校の2年生12名を生徒インストラクターとして養成。今年は生徒インストラクターが中心となって、全校生徒150名に交通安全教育を行いました。今後も、Hondaはプログラムの内容を充実させ、学校の自主活動につながる継続的な支援をしていきます。



兵庫県立伊丹西高等学校の先生方による自転車教育



群馬県立下仁田高等学校の先生方による感受性教育

*感受性教育とは、交通社会人としての責任を自ら考える座学。事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討論の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。



徳島県立三好高等学校の生徒インストラクターによる自転車教育

交通安全の普及拡大に向けた場と機会の提供

さまざまな地域・場所で 交通安全教室を展開



Hondaは、一人でも多くの方の安全を守りたいという考えのもと、交通安全の普及拡大に取り組んでいます。活動の原点である「手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を通じて、子どもから大人までより多くの方々に安全意識を高めてもらうことを目的に様々な場所で交通安全教育を展開しています。

● 様々な体験を通じて、
● 家族で交通安全について考える

Hondaは雁の巣レクリエーションセンター（福岡県福岡市・以下、ガンレク）で開催されたガンレク!フェスタというイベントの中で、「家族で体験!! Hondaの交通安全教室」を3回（5月、6月、10月）実施しました。「シートベルト重要性体験」「シティブレーキアクティブシステム体験（P4参照）」「自転車交通安全教室」「ぬりえ&交通安全クイズ」などのプログラムを用意して、イベントの来場者に興味のあるものを選んで参加していただきました。

また、来場者やガンレクのスタッフには、周辺でヒヤリとした経験のある場所を示すシールを白地図に貼ってもらい、これをもとにHondaがヒヤリマップを作成。このヒヤリマップをガンレクや地元警察署などに寄贈しました。この交通安全教室には1,000名以上の方々に参加いただきました。



Hondaは作成したヒヤリマップをガンレクや地元警察署などに寄贈

「ガンレク!フェスタ」での「家族で体験!! Hondaの交通安全教室」。「シートベルト重要性体験」ではシートベルトを正しく着用しないと、その効果が発揮されないことを説明



● Hondaの教育プログラムや教材、
● 教育機器を活用した交通安全教室

8月にはイオンモールむさし村山店（東京都武蔵村山市）で「家族で学ぶHondaの交通安全教室」を2日間にわたって開催しました。会場には「Honda交通安全かるた」「Honda自転車シミュレーター」などのプログラムが用意され、2日間で合計816名が参加。「Honda交通安全かるた」のコーナーでは、Hondaのスタッフがかるたの絵札を用いて集まった子どもたちに交通ルールの意味を解説。かるた取りでは、子どもに取った絵札を掲げてもらい、インストラクターがその絵札に合わせて事故に遭わないためのポイントを説明しました。「Honda自転車シミュレーター」のコーナーでは、シミュレーター体験を通じて、スタッフが子どもたちに基本的な交通ルールや安全な乗り方を伝えました。

また、9月には足立区大谷田南公園（東京都足立区）で交通安全教室を実施。Hondaのインストラクターが交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」を使って幼児に道路を横断する際の「止まる」「観る」の重要性を伝え、それを親子で公園内を歩きながら実践しました。この他、子どもたちに自転車の実技指導も行いました。



イオンモールむさし村山店での「家族で学ぶHondaの交通安全教室」



足立区大谷田南公園での「家族で学ぶHondaの交通安全教室」

● 子どもと親が楽しく交通安全を学ぶ
● 親子交通安全教室

Hondaパートナーシップインストラクター（P12参照）は、自治体や関係諸団体と協力して、親子が楽しく交通安全を学べる参加体験型の「親子交通安全教室」を開催しています。その目的は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解してもらうためです。今年は全国19カ所で開催され、合計1,696名の親子が参加しました。



「親子交通安全教室」でのダミー人形を使った飛び出し事故の再現

● 交通安全の動画やポスターを
● 広く一般から募集し、コンテストを実施

7月から9月にかけて、Hondaでは広く社会に警鐘を鳴らす交通安全の動画やポスターを一般の方々から募集しました。「こんな時が危ない!」を30秒の動画やポスターとして表現してもらい、コンテストを実施。入選作品は、Hondaのホームページで公開しています。



ポスターの部・大賞

動画の部・大賞

受賞者には安全運転普及本部より表彰状が贈られた

福祉関連安全運転教育プログラムの普及

身体が不自由な方の安全な 移動のために教育機会を提供



Hondaでは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念の実現に向け、お身体の不自由な方々の社会復帰に向けた安全な移動手段の確保のために教育機会の提供、ならびに運転復帰プロセスのサポートを通じ、一人でも多くの笑顔の拡大と交通事故の予防をめざしたいと考えています。

● 運転復帰をめざすリハビリテーション中の方への ● 教育機会の提供

現在、高次脳機能障害などにより加療中の方々が社会復帰をめざしてリハビリテーションに励んでおり、その中には運転復帰を希望される方もたくさんいます。こうしたリハビリ中の方の運転に対する評価や訓練をサポートするため、Hondaは「自操安全運転プログラム」を開発し、全国の交通教育センターで受講できるようにしました。このプログラムは、安全運転に必要な「走る」「曲がる」「止まる」といった基本行動を実車走行による体験を重ねることで、運転操作・感覚を把握するのが特徴です。

高次脳機能障害でリハビリ中の50代の男性の方は、NPOえんしゅう生活支援netの協力により交通教育センターレインボー浜名湖で「自操安全運転プログラム」を2014年1月より9回受講し、8月に運転復帰を果たしました。1回目から3回目までは交通教育センター内のコースでのトレーニング。加減速による速度調節、低速でブレーキやハンドルの操作、市街地を



交通教育センターレインボー浜名湖での「自操安全運転プログラム」

模したコースで、交差点の右左折などウィンカー操作を交えた法規走行に取り組み、4回目以降は、交通教育センター周辺の路上でのトレーニングを行いました。この方は「交通教育センター内では、基本的な運転操作や車庫入れなどを繰り返すことで車両感覚を取り戻すことができました。また、路上でのトレーニングでは身体の障がいによる運転特性をカバーするために必要なことを身につけられました。入院した時は周囲も自分も運転は無理だとあきらめていたので、このプログラムは私にとって救いの神です」と話しています。



交通教育センターレインボー浜名湖周辺の路上でのトレーニング

● 医療機関と交通教育センターによる ● 運転復帰プロセス上の連携と普及

熊本セントラル病院では、リハビリ中の患者の方が運転を再開する際の評価のために2013年から交通教育センターレインボー熊本の「自操安全運転プログラム」を活用しています。同病院は今年、理学療法士、作業療法士、言語療法士の10名のスタッフで構成される運転支援チームを発足させ、患者の方に気軽に運転復帰の相談をしてもらい、その方の運転評価をスムーズに行うための体制を整えました。スタッフ全員で情報とノウハウを共有し、「自操安全運転プログラム」を使って、誰もが患者の方の運転評価をできるようにすることをめざしています。

同病院通所リハビリテーション事業所・訪問リハビリテーション事業所・作業療法士の内田智子さんは「運転支援チームが発足したことで、患者様からの相談も増えています。それでも症例はまだ少ないので、学会や勉強会などを通じて私たちの取り組みを紹介し、他の病院にも拡げていきたい」と話しています。



交通教育センターレインボー熊本での熊本セントラル病院の患者の方を対象にした「自操安全運転プログラム」

● 福祉に関わる運転を行う方々の ● 事故を予防し、削減する

交通教育センターでは「自操安全運転プログラム」のほか、「移送安全運転プログラム」も提供しています。これは今後の高齢化の進展もあり、介助・介護などの配慮を必要とする送迎サービスが増加する中、サービスを提供する方々が、送迎中の安全運転ノウハウや意識を身につけることができる教育プログラムです。7月には交通教育センターレインボー埼玉で、バスや電車の利用が困難な方を対象にクルマを使って外出の支援を行っているNPO法人のインストラクター等が実車に乗って、静的実技（運転姿勢、車いす使用時の死角と視野など）、ブレーキ、ハンドル操作、バック走行といったプログラムを体験。参加された方からは「危険を自ら体験できることは、座学よりもはるかにわかりやすい。知識を教え込むのではなく、意識を変えていく手法は他にはないと思う」という感想をいただきました。



交通教育センターレインボー埼玉での「移送安全運転プログラム視察・体験会」

地域に密着した 手渡しで安全を伝える取り組み



Hondaの二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動を実践。安全運転に関するHondaの社内資格^{*}を取得したスタッフが中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスをしています。そして、販売会社での活動が広がるように継続して支援してまいります。

販売会社における活動を より地域に密着したものとするために

今年は、より地域での普及活動の場と機会の拡大を図るため、Honda Cars(四輪販売会社)との連携強化に取り組みました。例えばHonda Cars 若狭には、「あやとりいひよこ編」(P27参照)の指導ノウハウを伝えるための研修を社長以下、全スタッフを対象に実施しました。今後、Honda Cars 若狭では地域の子どもへの交通安全教育に「あやとりいひよこ編」を独自にアレンジしたうえで活用していくことを予定しています。

また、春と秋の「全国交通安全運動」(主催:内閣府ほか)に併せて展開した「セーフティキャンペーン」では、全Honda Cars拠点に「無事故無違反継続活動用ポスター」を配付し、自ら交通安全を意識、実践していただくとともに「すべての席でのシートベルト着用の徹底」に焦点を当てた声かけ展開を実施しました。



Honda Cars 若狭の全スタッフを対象にした「あやとりいひよこ編」の研修

春と秋の「セーフティキャンペーン」での販売会社のスタッフによる通学路等での安全旗振り誘導



^{*} Hondaの社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、電動カート「モンパル」の安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンパル安全運転指導員」などがある。

交通事故低減に向けた 関係諸団体との取り組み

教習指導員の更なるレベルアップと 交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場をご提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(後援:(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業(株)法人営業部)は今年14回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国76校147名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。この大会には、全国16校17名の教習指導員の皆様にも審判員としてご協力いただきました。



第14回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

二輪車の 交通事故防止のために

(一財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務などのほか、(一社)日本二輪車普及安全協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導員レベルアップ研修会などにも協力しています。さらに今年は、(一社)日本自動車工業会がインターネット上に公開している安全運転啓発ビデオ「原付スクーター Safety Riding!」の制作にも協力しました(協力:(一社)日本二輪車普及安全協会、監修:(一財)日本交通安全教育普及協会)。これから原付免許を取得する人や原付利用者に対して正しい乗り方を訴求する内容となっています。また、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。



第47回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力



(一社)日本自動車工業会の安全運転啓発ビデオ「原付スクーター Safety Riding!」の制作に協力



第45回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力

安全運転への気づきと理解を促す 参加体験型の実践教育



Hondaの交通教育センターは全国7カ所にあり(P23参照)、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に安全運転への気づきと理解を促すための参加体験型の実践教育や、社内外の指導者養成を行っています。今年は約9万8,000人(10月末現在)の方にご利用いただきました。

企業・団体などのニーズに合わせて 安全運転教育を提供

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを、オーダーメイドで提供しています。一例として、交通教育センターレインボー埼玉では総合警備保障(株)(ALSOK)の監督職を対象にしたセーフティドライバー認定員養成専科研修を実施しています。同社は「安全運転の指導者として必要な心構えと知識、技術を身につけてもらうことができる」と評価しています。

また、企業・団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。交通教育センターレインボー埼玉・和光では「2014トラフィック セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催。「安全・安心な未来の交通社会を目指した普及活動」をテーマに、ポラス(株)や(株)ドミノ・ピザジャパンなどの活動事例が紹介されました。



交通教育センターレインボー埼玉での総合警備保障(株)の監督職を対象にしたセーフティドライバー認定員養成専科研修

「安全」と「楽しさ」の両立をめざす バイクとクルマのスクール

個人のお客様向けには、Honda モーターサイクリスト・スクール(二輪)やHonda ドライビング・スクール(四輪)を開催しています。今年は、鈴鹿サーキット交通教育センターで50歳以上のライダーを対象にした「宮城光スマートライディング」を実施しました。モータージャーナリストとしてテレビや雑誌で活躍している宮城光さんが、受講者一人ひとりの運転を観察し、バイクを安全に楽しんでもらうためのアドバイスをを行いました。1年前に二輪免許を取得したという受講者は「これまでは運転中、ごちなく感じていましたが、宮城さんの指導のおかげで、今後はスムーズに走れそうです」と感想を語っています。



鈴鹿サーキット交通教育センターで50歳以上のライダーを対象にした「宮城光スマートライディング」

鈴鹿サーキットでの白バイ隊員の 講習開始から50周年の節目

1964年、鈴鹿サーキットに鈴鹿安全運転講習所(現在の鈴鹿サーキット交通教育センター)が開設され、最初の受講者は中部管区の白バイ隊員の方々でした。これが現在に続く、交通教育センターの活動の原点です。今年は、それから50周年の節目にあたるということで、6月に鈴鹿サーキット交通教育センターで地元の三重県警をはじめ、大阪、愛知など2府11県の白バイ隊員による合同訓練会が開催されました。



鈴鹿サーキット交通教育センターでの2府11県の白バイ隊員による合同訓練会

Hondaのインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図ることにより、活動のレベルを高めることを目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。15回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所、海外8カ国からインストラクター 65名が選手として参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、各3種類の運転技術を確認する競技に加え、指導者としての幅広い知識や指導力を確認するロールプレイングによる「指導力審査」(海外選手は「筆記レポート」)も行い、運転技術と指導力の向上につなげています。



第15回セーフティジャパンインストラクター競技大会

